

2016年度 第二部商経学科ゼミ募集要項

朝日ゼミ	
基本テーマ	ブラック企業問題、不安定雇用問題、女性労働問題、労働時間問題、貧困・格差問題など、日本の企業社会の問題点と解決方法を考えます。
ゼミ運営方法	文献研究を中心としたオーソドックスなゼミ運営です。文献は、相談して決めます。3年生の夏に、卒論テーマ報告合宿を行います。希望があれば、国内外の旅行、調査を行います。
就職指導の方針	2年生の12月に「就職対策合宿」を予定しています。進路の相談・指導は丁寧。
卒論の要件	原稿用紙30枚(12,000字)以上を要件とします。研究対象は、各自の選択で。
学生への要望	朝日ゼミは、人々の労働・生活問題に心を寄せ、それを解決するために、学習し、調査し、討論し、考えることを特徴としています。想像力豊かで、ヒューマンな学生を求めます。
その他	イベントに集団で取り組むことが好きなゼミです。ノリのいい人、やる気のある人、責任感の強い人を歓迎します。

岡村(俊)ゼミ	
基本テーマ	ゼミのテーマは「情報化を中心としたシステムと人間の関わり合い」です。コンピュータやネットワークを中心としたモノ、社会、システムが人間とどのように関わっているのか明らかにし、快適かつ効率的な(職業)生活をしていこうということです。簡単に言うと、「情報を活用することで、ラクして、いい仕事しよう」となります。心理学やエコに関して学ぶこともありますが、あくまでも(働くことを含めた)人間の生活からの視点で考えていきます。岡村(俊)はコンピュータの専門家でもあります。コンピュータをバリバリやりたいならこのゼミは1つの選択です。一方、「コンピュータは苦手」という学生が選択してもかまいません。どうして苦手なのか、コンピュータのどこが悪いのかを知ることができるかもしれません。
ゼミ運営方法	基本的に「演習1」と「演習2」は「卒業研究」に向けての準備だと考えます。卒業研究は「勉強」ではなく「研究」なので、世の中に役に立つ新しい事実を自ら発見することが望まれます。また、学習と実益を兼ねて、学内あちこちのIT環境改善(パソコンや周辺機器の設定とか)をゼミの中でやることもあります。ゼミの運営は基本的に学生にまかせます。学生の運営を教員がサポートする、というのが理想です。教室外、学外での活動も、できる限り学生の希望に応じていきたいと考えてます。
就職指導の方針	就職先、進路、書類の書き方などできる限り、アドバイスはします。こちらからなにか強制することはありませんが、たまに活動状況に関して確認することはあります。指導や助言はしますが、進路選択・就職活動はあくまでも学生自らの責任において行うものであると考えています。
卒論の要件	ゼミのテーマから大きく外れなければ、内容、字数ともに自由です。動画などのデジタルデータでもかまいません。各自のテーマは演習を進める中で自分で決めていくことになります。内容によっては複数名での執筆も可とします。内容に応じて、実地調査やアンケート調査、実験なども含めることもあります。
学生への要望	自分の考えを持つと同時に、その考えを表現する(相手に伝える)ことを望みます。基本的にゼミ生を自立した「おとな」として扱います。「おとな」になれない学生は、さくっと見捨てるかもしれません。
その他	何か質問があれば、okamura@biz-kpc.netにメールをするか、研究室(2号館1階)を訪ねてください。

岡村(雄)ゼミ	
基本テーマ	<p>会計を実践的に学ぶ</p> <p>会計は「事業の言語」といわれています。企業の内外の人々がコミュニケーションの手段として会計を利用しているからです。言い換えれば、ある状況における問題の発見、認識、そして解決方法を議論する際に、会計言語は必要不可欠な知識といえます。</p> <p>本演習では、ゲーム、模擬店経営、企業調査等のフィールドワークを通して簿記・会計を実践的に習得することを目指します。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習Ⅰ：テキストの輪読、模擬店経営(学園祭)による商いと帳簿つけの実践</p> <p>演習Ⅱ：テキストの輪読、企業調査を通して研究主題を設定し、卒論の青写真を描く</p> <p>卒業研究：毎週、研究の進捗を確認し、成果を卒論としてまとめる</p>
就職指導の方針	書類の書き方、面接での受け答えの仕方等、できる範囲でアドバイスします。
卒論の要件	<p>研究対象：基本テーマの範囲</p> <p>字数制限：なし</p>
学生への要望	<p>学生生活は短いです。なにごとにも貪欲にとり組みましょう。コンパ・合宿・旅行を企画できるかたを歓迎します。昨年は京都まで企業調査に行きました。今年は九州各地への調査旅行を予定しています。</p>
その他	興味がある方は研究室(3号館4階)を訪ねてください。演習Ⅱの見学も歓迎します。

瀬口ゼミ	
基本テーマ	<p>企業と市場、企業間競争、企業と社会について考察する。</p> <p>私の研究テーマは、「多国籍企業における市場戦略」ですが、それに縛られる必要はありません。経営学やマーケティング論などに少しでも興味があれば歓迎します。具体的には、企業間でどのような競争が展開されているか、なぜ売れる商品と売れない商品があるのか、企業は社会に対してどのような影響を与えるのか、などについて考えていきます。</p> <p>詳細については参加者の要望を聞いてから決定しますが、多国籍企業論、経営戦略論、企業の社会的責任論(GSR論)、マーケティング論、ブランド論、文化産業論、消費社会論、のいずれかが中心になります。このような分野に興味がある学生さんにおすすめします。</p> <p>過去の卒業生の多くは、卒論のテーマとして、「ディズニーリゾート」、「ユニクロ」、「ルイ・ヴィトン」、「オタク産業」、「K-POP」、「健康食品産業」など、自分が興味を持っている具体的な企業や産業を取り上げました。</p>
ゼミ運営方法	<p>・演習1では、ゼミ生の希望を聞きながら、以下の2つの方法から選択する予定です。</p> <p>(1)ゼミで共通の本を決め、輪読を行う。</p> <p>(2)各自で興味のある本を1冊選択し、交替で発表する。</p> <p>いずれの場合も、以下の手順で進めていきます。</p> <p>①文献を決定し、担当者を割り振る。②担当者は、自分の担当箇所をレジュメにまとめ、当日ゼミ員に配布する。③報告する際は、レジュメに基づきながら担当した箇所の内容をゼミ員に説明し、論点を提示する。④他のゼミ員は、報告者への質疑や提示された論点について意見を述べる。</p> <p>・演習2では、演習1での学習状況を見極めながら、応用文献の発表または卒業研究に向けたテーマ設定などを行う予定です。</p> <p>・卒業研究では、卒業論文の執筆がメインになります。各自のテーマに基づき、研究内容や進捗状況などを随時報告してもらいます。</p> <p>・学内解放(学祭)への参加、ゼミ合宿、工場見学、食事会などの活動も考えています。ただし、こちらから無理に計画することはありません。皆さんから積極的に希望を伝えてほしいと思います。</p>
就職指導の方針	<p>希望者に対して、企業研究、履歴書の書き方、面接対策などを出来る範囲でお手伝いします。ゼミ以外の時間でも、希望があれば時間を取って、個別に相談に乗るつもりです。</p> <p>また、就職活動に必要とされる能力(論理的に考える、自分の考えを持つ、自分の考えを相手にはっきりと伝える、相手の話を聞く、質問の意図を読み取る、など)は、ゼミ活動のなかでも養成できると考えます。したがって、普段のゼミ活動においても、就職活動直前になって困らないように、前述した能力を身に付けられるよう指導していきます。</p>
卒論の要件	<p>卒論のテーマは、私が指導可能な分野であれば、何でも構いません。</p> <p>テーマ設定や書き方などについては、ゼミのなかで具体的に指導していきます。</p> <p>文字数は、12,000字以上を予定しています。</p>
学生への要望	<p>現時点での知識や能力などは一切問いません。また、一人ひとり忙しさや力を入れていることが異なるでしょうから、ゼミ中心の生活を望むことはしません。</p> <p>しかしながら、ゼミに参加し、ともに学ぶにあたって、以下の点を守ってほしいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な理由が無い限り、欠席をしないこと。欠席する際は必ず事前に連絡をし、無断欠席をしないこと。 ・ゼミのテーマや本について決める際に自分の希望が叶わなくても、決まった以上は一生懸命取り組むこと。 ・自分が担当すること(担当する章の報告など)には責任を持つこと。 ・自分が担当する章でなくても、きちんと文献を読み質問を考えてくれること。 ・「黙っていても何かしてくれる」のではなく、「自分たちでゼミをつくっていく」気持ちを持つこと。
その他	ゼミについて質問があれば、seguchi@k-kentan.ac.jpまでメールしてください。

2016年度 第二部商経学科ゼミ募集要項

田口ゼミ	
基本テーマ	あらかじめこちらでテーマをきちんと設定することはなかなか難しいところです。担当教員(私)の専門は、教育学です。教育行政・教育政策・諸外国の教育動向・障害児教育・幼年期の教育などを扱っています。政治経済的な視点から教育をみようとしています。参加メンバーにもよりますが、教育だけではなく、広く子どもや福祉、人権などを扱って行きたいと思います。でも概ね未定です。直近のゼミで「子どもの貧困」を扱いました。
ゼミ運営方法	1年半全体を通して、前半はいくつかの文献をきちんと読んで、報告者がレジュメをつくり討論するパターンでテキストを批判的に学習する訓練をします。後半は卒論の作成に向けて、各自のテーマ毎に発表をし、その内容を深めたいと思います。こちらもよく相談して決めましょう。スタディ・ツアーも一度くらいしたいものです。
就職指導の方針	エントリーシートの書き方、面接の受け方等の一般的な内容について、学生の要請があれば、ゼミの時間外ということになりますが指導します。
卒論の要件	分量の規定は、40W×30L×10Pぐらいが目安です。そのほか、内容等はゼミにて指示します。
学生への要望	まじめに参加すること。だからといって、ゼミや卒論指導に関して、教員の側の熱意とエネルギーに見合うだけの学生の熱意を期待してはいけません。というのが、大学教員を10数年続けて、体得した知見です。それでも一生懸命、課題に打ち込み、考え抜くことは必要であると考えてるので、その人なりにまじめに参加すること。
その他	ほとんどが未定です。運営については、コンパなどで話し合います。

疋田ゼミ	
基本テーマ	テーマ【鹿児島島の戦中・戦後史】 戦後70年。鹿児島島の戦中・戦後を知る人たちに、直接話を聞くチャンスも残り少なくなってきました。講義では日本や世界の政治・経済・社会の歴史を学ぶチャンスはありますが、鹿児島島が、そして鹿児島島を生きた人たちが、その時代をどう生きて、どんな選択をしてきたのかを学ぶ機会は少ないと思います。 今年の疋田ゼミは、鹿児島島の戦中・戦後史を、手当たり次第知って楽しむところから始めます。それによって、これから鹿児島島の街づくりはどうコミットしたいか夢を膨らませてもらえればと思っています。
ゼミ運営方法	「演習Ⅰ」では、戦後直後の鹿児島島を復興期から高度成長期を、当時活躍した人たちの自伝や、南日本新聞社編「かごしま20世紀」などをテキストに知ることから始めます。「演習Ⅱ」では、70年代以降90年代まで、『卒業研究』では、鹿児島島の戦中・戦後史の中でそれぞれが興味を持ったテーマに絞って掘り下げて卒業論文に仕上げます。 ゼミでは、それぞれの項目ごとに報告担当を決めて報告してもらい、議論します。 本を読むだけでなく、できるだけ直接話を聞く機会を作りたいと思います。 またゼミのリクレーションなどの活動は、要望があれば最大限サポートして一緒に楽しみたいと思います。
就職指導の方針	就職は県短生にとって大きな関心事だと思いますので、私ができるサポートは最大限していきたいと思っています。編入試験も含め、自己PRや志望動機、面接へのアドバイスはこれまでもやってきましたし、具体的な求人情報の提供や履歴書添削を行なう学生課との橋渡しもやっていきたいと思っています。 1年の終わりに具体的活動が始まる短大生にとって、就職活動は、その流れに乗れる素直さと、失敗してもそれを糧にできる精神的なタフさが要求されるようです。ゼミでは、その素直さとタフさを養えるようサポートしたいと思います。
卒論の要件	12000字以上でテーマは基本的に「鹿児島」に関わる歴史という範囲で自由とします。 『卒業研究』が始まるまでに、興味のあること、探求したいテーマを見つけ、納得がいくものを是非書いてください。論文の様式、書き方について指導、添削します。
学生への要望	講義ではなくゼミナールなので、他人の話聞き、自分の思いを自分の言葉で語れる人、あるいは、そうありたいと思っている人に来てほしいです。特に、ゼミの欠席などについてはちゃんと連絡をするなど、最低限のマナーは守ってほしい。 それと、ゼミの時はゼミのテーマに真剣に取り組む、遊ぶ時は思いっきり楽しむ、というメリハリをつけられる人。あるいはそうありたいと思っている人を希望します。
その他	疋田についてもう少し知りたいと思う人は研究室(3号館4階)を訪ねてください。ただし、メールで(hikita@k-kentan.ac.jp)アポをとってから。またメールでの質問も受け付けます。

船津ゼミ	
基本テーマ	<p>経済・社会を洞察する力を養うことが基本テーマです。そして、自分自身でテーマを見つけ、それについて調べ、調べたことを総合して論理的に考え、自分の調べたことや考えたことを説得力のある形で人に伝えられるようになることを目指します。卒業論文がその締めくくりとなります。卒業論文のテーマは社会に関するものであれば基本的に自由です。僕の専門は財政学、地方財政論で、国際経済・社会に関することも研究テーマにしていますので、経済関連だけでなく、政治や社会問題に関することでも、また日本や国内の地域はもちろん外国や国際経済・社会を対象にしたテーマでも構いません。</p>
ゼミ運営方法	<p>基本テーマで書いたことを実現するために、本を読めるようになることと議論できるようになることを重視して運営します。演習Ⅰでは、まず、全員で共通の本を読みつつ、報告者が担当部分を報告し、みんなで議論するか、ゼミ生がそれぞれ自分で本を選び(難しすぎたり、簡単すぎたりしないよう、僕が相談に乗ります)、その本について報告者が報告し、みんなで議論するか、どちらかをベースにし、その上で、1ヶ月か2ヶ月に1度ディベート(討論)を行いたいと思います。ディベートは2つのチームを固定し、テーマもそれぞれのチームが交互に決める形を取りたいと思います。</p>
就職指導の方針	<p>ゼミ生の要望に沿って、ゼミ生を手伝うというのが基本です。具体的には、履歴書を書く時に相談に乗ったり、添削したり、面接の練習相手をしてアドバイスしたり、進学志望の学生の場合には、勉強方法についてアドバイスしたり、勉強会のような形で分からないこと等の質問に答えたりといったことをしています。就活のためにゼミ生に義務的に何かをさせるといったことはしません。</p>
卒論の要件	<p>分量としては、400字×20枚以上が基準です(ただし、本文は20枚未満でも、図表を多く用いる場合等もあり得ますので、あくまで一応の目安に過ぎません)。テーマは、前述のように社会に関するものであれば基本的に自由です。過去の卒論のテーマには、鹿児島県財政、鹿児島県内の市町村合併(薩摩川内市、南九州市等)、地域経済の活性化(出水市の企業誘致、「さんふらわあ」の影響、天文館の活性化等)、雇用・労働(アルバイト雇用、派遣労働、高齢者雇用、外国人労働者、女性の就業率、奄美市の雇用)、観光(鹿児島県と熊本県や福岡県との比較、霧島等のジオパークの比較等)、地域防災計画(鹿児島市と宮崎市の比較)、テレビCMと企業の売上の関係性、企業の経営分析(路線バス、ブランド戦略、コンビニ間の比較、ユニクロの分析、楽天とアマゾンの比較)、スポーツ(日本のプロ野球球団、野球の独立リーグ、日本女子サッカーの分析)、NPOと行政の協働、ロンドンオリンピックから見る東京オリンピック等がありました。</p>
学生への要望	<p>現在の知識の量、勉強や読書の得意、不得意といったことは全く問いません。また、ゼミの議論では積極的に発言してもらいたいと思いますが、良いこと、賢そうなこと、感心してもらえるようなことを言おうとする必要は全くありません。しゃべることが得意でなくても構いませんから、自分が感じたこと、考えたことを素直に、出来るだけ分かりやすく伝えようとしてもらえれば十分です。その積み重ねが地力になっていくはずですよ。</p>
その他	<p>僕に実際に会ったり、話してゼミ選択の判断材料にしたいという方は遠慮なく声をかけてください。アポなしだと他の仕事等と重なる可能性もありますので、講義(日本経済論)やゼミ(基礎演習(二部)、演習Ⅱ(一部))の前後以外の時間でずとメールでアポイントメントをとってもらえるのが確実だと思います。件名に「二部のゼミ選択について(自分の名字)」と入れてもらえると、スパムとの区別が付きやすく、助かります。数人一緒に大丈夫です。気楽に声をかけてください。</p>